

「わたしもその中にいる」 - マタイによる福音書講解説教 77-

レビ記 第19章 15節～18節
マタイによる福音書 第18章 15節～20節

説教 岡村 恒 牧師

「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」。(20節) 主イエスはそう言って、私たちのただ中に、主ご自身が共にいて下さると約束なさいました。

十字架を前にして主イエスがお語りになった御言葉は、この前後の話と深く結びついています。直前では、迷い出た一匹の羊を捜し出して喜ぶ羊飼いのたとえが語られ、神が、尋ね求める神だと語られました。また次には、友を赦すたとえ話が続き、神の赦しの大きさが語られます。主イエスは、私たちを通して、罪の赦しが宣べ伝えられ、神の国への道が、私たちの兄弟姉妹へと開かれるようにお語りになったのです。

ここで主イエスは、ひとりの兄弟を得る、という話をしておられます。罪を犯した兄弟に忠告をして、「もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。」(15節)と言われました。一匹の羊を捜すお方が、私たちにも、自分の兄弟を発見して取り戻して生きると勧め、励まして下さいました。

まずは個人的に忠告します。それでもダメなら、「ふたりまたは三人の証人」によって事実を確認し、罪を指摘して悔い改めに導くようにと勧められています。それでも兄弟が帰って来ない時は、教会で、つまり信仰共同体全体で諭したら良い、と言うのです。この手順はとても丁寧で、心のこもった方法です。しかし最後に、「その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい」と記されています。もう救われることのあり得ない存在として遠ざけてしまう、と冷たく聞こえる言葉です。しかしこの話を聞いていた弟子たちの中に、かつて取税人だったマタイがいました。ユダヤ人の常識や知恵では、決して救われることのない取税人でさえ、主イエスに呼び出される時、その弟子となり、神の子と呼ばれるのです。私たち人間に託された務めには限りがあります。いつでも限界に直面します。しかしその先で、私たちの思いや期待を越えた先で、主イエスご自身が働いて下さるのです。

主イエスはこうして、私たちに牧会と福音宣教の務め、「罪の赦しの宣言」を託して下さいました。神を信じ、主イエスを信じる信仰を告白する者に、信仰者は「あなたの罪は赦された」と宣言することができます。「あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つながれ」(18節)なのです。地上で信仰を告白して、罪の赦しの洗

礼を受けた者は神の子とされ、神の国に国籍を持つ者となります。教会には、こうして人を神の国につなぎ止める力が委ねられています。ここで主イエスが語っておられるのは、徹頭徹尾、一人の人の救いの話です。私たちのかたわらに

いるあの兄弟、あの姉妹の救いの話なのです。そうだとすると、19節にでてくる「どんな願い事についても」というのは、私たちが思い描くような、欲望に満ちた願い事であるはずがありません。あの兄弟の救い、あの姉妹の救いという具体的な、人の救いに関わる願い事に違いないのです。私たちのうちのふたりが、一人の人の救いのためにこの地上で心一つにして祈るなら、主イエスご自身が、その祈りに心を合わせて下さいます。「ふたりまたは三人が」、主の名によって集まるのもまた、他の目的や、自分自身の願い事を申し上げるためではなく、何よりもまず、他の人の救いのために、主の御心が成就することを祈り求めるために集まる、ということになるでしょう。それはまさに、今、ここで起こっていることです。私たちが今、ここに集まっているのは、人の救いのために、主の名を呼びながら集まっているからです。

そしてこの祈りの中心、この礼拝のただ中に、主イエスご自身が共にいて下さいます。父なる神はいつでも、どこでも私たちと共におられます。主イエスご自身も、助け主なる聖霊を私たちに注いで、いつも、いつまでも共にいて下さいます。私たちの人生の中で、一瞬たりとも神が関わらない瞬間などありません。しかしそれでも、主イエスは「わたしもその中にいるのである」とおっしゃいました。救いのみ業が実現していくようにとふたりまたは三人が、主イエスの名に信頼して集まっているこの礼拝の中で、主イエスご自身が私たちの真ん中に共にいて下さることを、私たちは味わっています。

友のために、一人の人の救いのために、心を合わせて祈りたいと思います。今ここにおられるあなたの救いのために、私たちは心を合わせて祈ります。それが天の父の御心です。そしてこの祈りの中心に主イエスご自身が熱い思いを持って共にいて下さいます。祈りをかなえ、あなたの救いを実現するために。既に救われた者の信仰がいよいよ堅くされ、命の道を歩み続けることができるために。今日ここで、主の救いのみ業が実現していくために。

(記 岡村 恒)